

# 渋沢栄一が生きた時代 一田無・保谷の歴史のあゆみ

## ～展示概要編～

### ■御門訴事件

〔武蔵野新田農民の闘い/自由民権運動のさきがけ〕～明治3（1870）年1月10日～

## 御門訴事件（ごもんそじけん） ←

### 【御門訴事件とは】 ←

御門訴事件とは、明治3（1870）年1月、武蔵野新田12か村（現在の西東京市・東久留米市・武蔵野市・小金井市・小平市・国分寺市）の農民が、当地域を管轄・支配していた品川県の貯穀制度である「社倉制度」（凶作に備えて新たに、米または金の提出命令）に対し強く反対し、品川県庁（日本橋・浜町）の門前において集団訴訟（嘆願）をおこない、多数の農民が捕えられた事件です。 ←

### 【品川県庁へ嘆願書を提出】 ←

「社倉制度」は窮民救済のためでしたが、その負担は過酷なもので、布達された村むらのうち上保谷新田・田無新田（西東京市内）、柳窪新田（東久留米市内）、関前新田（武蔵野市内）、梶野新田・関野新田（小金井市内）、鈴木新田・大沼田新田・野中新田・与右衛門組・野中新田善左衛門組（小平市内）、野中新田六左衛門組・戸倉新田・内藤新田（国分寺市内）の13新田が、数年来の凶作による食糧不足、肥料の値上がり、収穫量の低下、徳川幕府時代の「養料金」制度による武蔵野新田の保護があったことなどを理由に社倉免除の嘆願書を品川県へ提出しました。 ←

### 【八反歩で蜂起】 ←

交渉のすえ、減額して県へ納めることに一度はまとまりましたが、品川県知事・古賀一平の意向によって約束は破棄され、12か村のリーダーである上保谷新田名主・平井伊左衛門と関前新田名主・

井口忠左衛門を、さらに 12 か村の代表を拘留するという県側の強硬手段に対して農民 700~800 名が石神井川沿いの八反歩で蜂起し、青梅街道を東へ約 50 町の品川県庁まで門訴（直訴）に向う事態に発展します。←

待ち伏せていた県の軍隊によって多くの人々は進行を阻止されましたが、一部の人たちは迂回して品川県庁へ到着。門前に集まった農民たちは一步も門内には入らずに切々と訴えていたところ、突然、門が開かれ、県側の多数の兵たちが農民たちに切りかかりました。←

素手の農民たちは抗するすべもなく傷つき、ある者は浜町川に飛び込みました。←

明治 3 年正月 10 日の夜中のことでした。農民側は 51 名が捕えられ、咎めが厳しく、逃げのびた農民たちにも追手がかかりました。

#### 【むさ志野の涙】←

事件後、首謀者と見られた上保谷新田・組頭の弟、櫻井国蔵と野中新田与右衛門組名主・高橋定右衛門など 5 名が取調中に牢内で死亡、関前新田名主・井口忠左衛門は獄中で重病となり、出所後まもなく死亡しました。←

逃走者の捜索では家族が拷問にあうなど、品川県の取調は過酷を極めました。←

多くの犠牲を出した社会制度は、明治 4 年の古賀県知事の転出や廃藩置県によって品川県が廃されたことにより、廃止されました。←

## ■ 展示資料紹介

- ・ 小金井市まちおこし観光協会：提供写真

真蔵院（昭和 31 年撮影）

- ・ 武蔵野ふるさと歴史館：提供写真

告諭の高札（武蔵野市保管井口家資料）

- ・ 西東京市郷土資料室：撮影写真/作成資料

御門訴事件詳細年表、倚錘碑、招魂塔、高橋定右衛門墓、八反田跡